令和７年度　第１回　石巻圏域定住自立圏共生ビジョン懇談会　会議録

■日　時：令和７年７月１７日（木）１８：１５～２０：１５
■場　所：ささえあいセンター　ささえあいホール
■出席者：別紙のとおり

石巻圏域定住自立圏共生ビジョンの進捗管理にあたり、構成員から様々な意見を幅広く聴取するため懇談会を開催した。

１　開会

２　座長選任

３　石巻圏域定住自立圏共生ビジョンの概要及び一部変更について
（資料１―１及び１－２に基づき説明）

４　石巻圏域定住自立圏共生ビジョンに位置付けた連携事業における令和５年度実績の修正について（資料２に基づき説明）

５　各分科会に分かれて意見交換
各分科会については、別紙のとおり。

６　各分科会からの意見共有（各座長から説明）
意見については、別紙のとおり。

７　閉会

医療福祉分科会

■日　時：令和７年７月１７日（木）１８：３５～１９：４５
■場　所：ささえあいセンター　ささえあいホール
■出席者：別紙のとおり

事務局からこれまでのビジョン懇談会の意見への対応を説明後、ワーキンググループ座長から各連携事業における令和６年度までの進捗状況・令和７年度の予定・懸案事項等を説明し、意見交換へと移った。

意見交換の概要については以下のとおり。

【救急医療・地域医療連携体制整備事業】

（構成員）

「休日当番医のコンビニ受診を抑える」ということだが、平日に病院に行きたいと思ったときに、働きやすさや休みの取りやすさなどが重要だ。そういった声がけ等が必要だと思う。

（座長）

休日医療は一次救急であり、そこで治療できない方が二次救急、それでも困難な方が日赤さんといった形でピラミット構造の中で、救急医療として提供している。平日に行ってもいいようなものや、市販薬でどうにかなるよう患者も多く、そういういった判断ができるような教育やＨＰでの情報発信が重要だと考えており、医療圧迫が発生し本来必要な方に治療が回らないことがないよう、バランスを取りながら取り組んでまいりたい。

【子育て支援センター相互利用等事業】

（構成員）

合同研修が年に１回開かれているが、年々利用者が減少しているという悩みの共有はあるものの、どのように対策するかを話し合う場がないので、もう１回くらい全体で集まる機会を設けてはいかがか。

全体の利用者数は横ばいの実績だが、地域間では大きな差が生まれてきており、どこでも通園や父親への子育て支援など新しい利用方法も含めて利用を促していくことが必要だと思う。

（構成員）

子どもが生まれる数が減っていることのほかに、最近では、子どもが６か月を過ぎたら預けて働きたいという母親が増えており、保育所の利用が増えると子育て支援センターの利用数は減少するという傾向が出てきている。

育休や年休で父親が育児参加することも増えており、２～３か月家族の中で子育てして、その後に保育所に入るとなると、センターの利用はやはり減少傾向にある。

【ファミリーサポートセンター連携事業】

（構成員）

石巻市のファミリーサポートセンター事業に携わる立場から説明すると、令和５年度から６年度の実績が大きく減少した理由は、延べの利用数が非常に大きい利用者がおり、そういった方との調整がうまくいかず減少した経緯がある。今後は様々な送迎ニーズが増加していることから、児童クラブから塾など、利用者のニーズに合わせて対応していきたい。

（構成員）

女川町では、制度の立ち上げ段階だが、計画に記載された事業内容の中で方向性を模索していると聞いている。小さい自治体だからこそ、いろいろ立ち上げるのではなく、今ある資源の中で事業に取り組む方向性を模索していると認識する。

（構成員）

今年度は圏域会議の開催を予定しているとのことであり、子育て支援については連携事項がたくさんあり、女川町とも情報連携が取れる。

（座長）

本事業は会員数が年々増加しているが、ヘビーユーザーが抜けたこともあり、利用者数が減少しており、年度により利用者数が大きく変動する。また、利用回数によっては持ち出しが増えたり、利用時間が夜になれば単価が少し高いなど、利用者に負担があるので、それを軽減できないか検討したい。

【医療・介護・福祉人材確保事業】

（構成員）

福祉人材の確保はどこでも共通の課題であり、最近では外国人の採用も行われているが、言葉の壁などの悩みも聞く。２市１町でまとまって何かできないかと思うが、例えば石巻市ではどのようなことをやっているのか。

（座長）

本連携事業の実績値は奨学金返還支援事業ということで、東松島市を含め、医療介護福祉分野として、本市の場合には６０万円を上限として、制度を創設し、このように人数として成果が出ている状況である。

（構成員）

定住促進にあたり、地域福祉分野はとても重要であり、担い手不足を含め、住民主体の福祉活動などを活発化させていくということが非常に重要だと考えるが、このビジョンの中にはあまり入っていないように感じる。あらゆる生活課題に対応していく必要があり、福祉人材の不足もこれにはつながると考える。自主的な活動で機運を高め、民生委員不足なども含めてなり手不足を大きなテーマとしてとらえていくことも必要である。

（事務局）

石巻市では様々な民間団体と包括連携協定を結び、様々な分野で民間の力を活用している。今の包括連携協定には民間活力とのタイアップという部分はないが、次期ビジョンの策定にあたっては、民間連携が非常に重要であるといわれていることから、そのあたりの視点も盛り込んでいく必要があると感じた。

（構成員）

介護分野で人手不足が発生すると、それが育児分野などにも波及するため、専門家でなくてはできないこともあるが、専門性を磨くことができる、住民がかかわっていけることもあると考えており、民間との連携に関する分野は盛り込んでほしい。

産むことができる地域は重要であり、医師不足によって出産ができないといったことがないよう、人材であったり緊急の医療体制などが非常に重要だと思う。

教育分科会

■日　時：令和７年７月１７日（木）１８：３５～１９：３５
■場　所：ささえあいセンター　地域協働室
■出席者：別紙のとおり

事務局からこれまでのビジョン懇談会の意見への対応を説明後、ワーキンググループ座長から各連携事業における令和６年度までの進捗状況・令和７年度の予定・懸案事項等を説明し、意見交換へと移った。

意見交換の概要については以下のとおり。

【図書館相互連携事業】

（構成員）
　相互貸し出しサービスとはどういったものか。

（座長）
　石巻圏域に在住の方であれば貸し出しが可能となっている。また、通勤等で石巻に通われている方にも図書館を利用いただけるという貸し出しサービスであり、お互いの自治体で取り組んでいる。

（構成員）
　こういった取組を市民の皆様に周知していただければ、広域圏の交流等がもっと活発になると思うので、周知にもっと力を入れていただきたい。

（座長）
　今年度は東松島市に新しく造成、増築した図書館も完成したことから、お互いに連携できるよう、市報やホームページだけにとどまらない、SNS 等も活用した周知ができるよう努めてまいりたい。

（副座長）
　東松島の図書館では、利用の時間や希望する曜日などについてアンケート調査を行っているが、現在百数十名から回答をいただいており、その２０％は石巻市の方からの回答であった。圏域での図書館の相互利用については、今後も周知を行いながら、図書館祭りなどでも相互にブース出展等を行い、宣伝し合うということについても持ち帰って話し合いたい。

【陸上競技場整備事業】

（構成員）

数値目標について、令和６年度の実績値が０％となっているが、令和８年度に整備進捗率が１００％となっている。この１００％はどういう考えなのか教えていただきたい。

（事務局）
これまでの経緯として、設計や調査の進捗により、過去には数値が入っていたこともあったが、「整備事業」であることから０％と改めた。そのため、ここでの１００％は整備完了を意味し、０％は未着手であることを表している。

（構成員）
計画通りにオープンすることはできるのか。

（事務局）
昨年の石巻市議会でも陸上競技場の整備について話題となり、新聞等で皆様から御意見も頂戴し、また資料説明の中でもあったが、もともとの構想から社会情勢や物価高騰の影響があり、本当に整備できるのか、整備した後に維持管理を賄っていくことができるのかというところなどについて、基本設計ということで内部調整をしているところであり、この目標値はあくまで努力目標として表記している。

（構成員）
是非とも前向きに進めていただきたい。

【石巻市特別支援教育共同実習所運営事業】
（構成員）
事業内容に職業に対する知識・理解、技能の習得のためとあるが、教室の対象の子供たちも、受験があることから、この協働実習所を利用することが、社会教育も含めて学習向上に役立つ取り組みについて検討していただきたい。
また、懸案事項の中に、東松島市と利用に関する協定を締結していないということだが、東松島市単独で特別支援教室の実習を行っているのだから、せっかくの２市１町での連携なので、例えば事務局から説明があった中で、今年はボウリング大会を実施するようだが、一堂に体育館に行って、いろいろなスポーツレクリエーションに取り組むなど、２市１町での連携事業を進めていくのはいかがか。

（座長）
石巻実習所の今の活動状況として、御指摘いただいた学習に関する取組の時間がないので、頂いた御意見を担当課に共有したい。
連携事業については、多くの方と会い、いろいろな仲間と友達になるということは大きな

成果となることから、実習所に通われている方々の育成に寄与できるのかというところを含め、担当課へ共有し、連携しながら取り組んでまいりたい。

（構成員）
　後段は理解した。前段について、今年の実習所は女川の生徒が５人、石巻の生徒が５４人の５９人でスタートした。石巻市内で、特別支援学級在籍者は９４人おり、実習所が社会的な自立ではなく、それらを体験することがが学力向上にもつながっているという内容の事業内容の表記の方がわかりやすいと思う。

（座長）
　事業内容にそういった具体的な部分を加筆してまいりたい。

【社会教育団体交流事業】
（構成員）
　令和８年度の目標より令和６年度末の実績の方が数値が高くなっているが、目標が実績の数値より低いのはどうなのか。

（座長）
　事業が予定より進み、目標値を上回ったという状況であり、目標値の上方修正について検討したい。

【石巻専修大学地域連携事業】
（構成員）
　懸案事項に「高大連携に加え、初等中等教育への接続強化」とあるが、どのような接続なのか教えていただきたい。仙台管区気象台の方や東北大学の先生がいらっしゃり、科学実験などしていただくと、子どもたちはとても喜ぶので、石巻専修大学にもそのようなプログラムなどがあるなら、お願いしたい。出前講座として、以前は高齢者向けの睡眠についての先生来ていただきやっていただいたことはあるが、ホームページの出前講座のところに高齢者向けや子供も高齢者も楽しめるような内容という表示を追加していただき、利用しやすく、大学を身近に感じることができるようにしていただきたく思う。

（構成員）
　頂戴した意見を持ち帰り、ホームページの表示について工夫したい。先日近隣の商業施設

でワークショップを開催した際には、小さい子どもたちが目を輝かせて散会していただいた。専修大学では初等教育への接続強化を掲げたのがここ近年のことであるため、まだ模索中ではあるが、２市１町の要望を参考に、地元から裾野を伸ばしていきたい。

産業分科会

■日　時：令和７年７月１７日（木）１８：３５～１９：２０
■場　所：ささえあいセンター　ミーティングルーム
■出席者：別紙のとおり

事務局からこれまでのビジョン懇談会の意見への対応を説明後、ワーキンググループ座長から各連携事業における令和６年度までの進捗状況・令和７年度の予定・懸案事項等を説明し、意見交換へと移った。

意見交換の概要については以下のとおり。

【石巻港整備事業】

（構成員）
石巻港で水揚げされた飼肥料について、山形県の方に物流がされており、国道１０８号線が非常に狭く、大型車両が通れないということがある。この道路が完成すれば、物流が非常に良くなると思っている。国交省の資料によれば、東日本大震災の際に市肥料の供給が停止した際には、山形県の豚がやせ、肉質の低下等の影響があったとのことなので、石巻港の整備と併せた道路整備も必要だと考える。

（座長）
山形方面への飼肥料の流通については、石巻新庄道路の整備、これは物流のみならず災害時の命の道路という意味でも非常に重要なものであり、国県への要望活動を実施していることから、今後も御協力願う。併せて、飼肥料の輸送については、三陸自動車道を活用した岩手県への物流も多い一方、三陸自動車道は石巻市の桃生豊里 IC 以北は１車線となっており、この２車線化についても国県への要望を進めている。

（構成員）
今年は何隻の大型クルーズ船が来航する予定なのか。

（座長）
まず、５月１８日にはヘリテージアドベンチャラーが入港した。今後は、１０月にパナマ船籍のシーボーンクエストという船が初めて寄港するという予定となっており、今年はこの２隻となる。

（構成員）
客船誘致の隻数に毎年目標は設定しているのか。
（座長）
目標は設定していないが、クルーズ船が入港すれば、海外のお客様が町に出てきて、活

気につながると思うので、今後も積極的にポートセールスに力を入れてまいりたい。

【企業立地活動事業】

（構成員）

企業立地が進むことは良いことだが、商工会議所で実施する労働力実態調査の結果によれば、約６０％の事業所で労働力不足が発生しているということである。ほとんどの企業では採用活動を強化しているが、思ったより採用ができていないという答えが多かったと思う。企業立地を進めるとともに、労働力確保も横にらみにして、両方の対策が必要だと考える。

（座長）

企業立地に関連し、企業訪問など行うと、人手不足の話が出ることが多い。高校生などは就職希望先が市外、県外となっており出ていきたいという希望が多いという状況もあることから、今後は企業の PR や魅力向上などについて、２市１町の圏域の人口減少にも影響することから、皆さんの御協力もいただきながら官民一体となって取り組んでまいりたい。

【広域観光推進事業】

（構成員）

令和７年度取組予定の教育力をや企業研修誘致に向けたセールスとは具体的にどのような内容か説明いただきたい。

（構成員）

昨年の会議でも話題となったが、東松島市で地元事業者と旅行会社等のエージェントを集めてマッチング会を毎年開催していたが、これを契機に広げた方がよいという提案をいただき、２市１町と協議の結果、教育旅行商談会を今秋に開催予定として準備を進めている。

（構成員）

２市１町の観光し新事業やイベントなどへの職員派遣による相互運営についても説明願う。

（座長）

こちらについては、石巻市の観光推進課で実施する地域活性化起業人活用事業のことである。こちらは、石巻市のみの実施となる。

（構成員）

懸案事項に記載の内容については、収益事業として２市１町共通のプラットフォームで

利用可能なレンタサイクルや圏域各地域の旅行商品等を販売している。また、ふるさと納税での鹿肉販売や自転車イベントの販売などの仕組みづくりに取り組んでおり、少しずつ収益性の向上を進めていく。

【二ホンジカ捕獲・狩猟促進事業】

（構成員）

狩猟免許取得に関する助成とあるが、大体何名程度利用があるのか。

（副座長）

女川町では昨年２名の罠狩猟の免許取得助成実績があった。

（事務局）

石巻市では、受験者用講習会の受講料支援として延べ７名、狩猟免許の試験受講についても一部費用を助成しており、こちらも延べ７名の方に御利用いただいた。

（構成員）

広域観光推進事業とも関連するが、ニホンジカ対策を観光コンテンツとして教育旅行のプログラムとして、東京の中学生が地域の課題解決を学ぶという内容で、女川の事業者にも御協力をいただきながら準備をしているところである。

まちづくり分科会

■日　時：令和６年７月２３日（火）１８：３５～１９：４０
■場　所：ささえあいセンター　ささえあいホール
■出席者：別紙のとおり

事務局からこれまでのビジョン懇談会の意見への対応を説明後、ワーキンググループ座長から各連携事業における令和６年度までの進捗状況・令和７年度の予定・懸案事項等を説明し、意見交換へと移った。

意見交換の概要については以下のとおり。

【環境保全啓発事業】

（構成員）

環境フェアについて、女川、東松島へ呼びかけても参加していただけないという状況を石巻市の担当課から聞いた。環境市民講座についても、今回は東松島市から若干の参加があったものの、PR の手法が足りず、情報が欲しいところまで届いていないと感じた。相互に参加し合うといったことは難しいのか、必要性がないのか。

（座長）

相互に協力し合うには、関わる市町すべてが利益を得られる、効果がある必要があるが、その視点が抜けていると感じる。いただいた意見は、担当部署へ共有する。

【地域バス等確保事業】

（構成員）

公共交通の利用者として一番大きくとらえられるのは高齢者、高校生である。高齢者については医療連携ということで、病院の合併や集約といったところが進んでいることから、それを加味した地域バスの支援を考えていただきたい。

また、高校生に関しても県立高校の再編といったところが進んでおり、遠距離通学が増えていくことから、そいった際に保護者が送らなければいけないとなれば、そのような中で定住できるのかという懸念にまでつながっていくと思うので、高校生の移動の足についても考えて連携事業に取り入れていただきたい。

【移住定住促進事業】

（構成員）

インパクトのある住宅や土地の補助があると、外の立場の人たちは移住の検討がしやすいと思う。薄く広く使うより、インパクトのあるところに補助した方がよいと思う。

（副座長）

御意見をいただいた、どのような町であれば住みたくなるのかという部分を考え、今の制度に満足せず検討を続けていきたい。

【震災伝承連携事業】

（構成員）

民間レベルで、防災、震災伝承、コミュニティといった要素で、緩いつながりの団体を作っており、予算の範囲内で構わないので、民間の人たちを盛り立てていただけるようなバックアップをいただきたい。

予算がなくてもできるのはこういった集まりの連携なので、行政間でもっと民間に目を向けて集まる下地を作っていただきたい。

【外部人材活用推進事業】

（構成員）

行政の方々は外部との連携というところができ辛く、内部で固めて仕事をしていると感じる。民間との連携を取りながら、このプラットフォームを活用して移住定住というところにつなげていくというのはいかがか。

（座長）

移住定住については、懸案に記載のとおり、各市町で考え方が異なり、補助制度なども異なっていることから、一体となって取り組むことが難しいという現状となっている。今回の御指摘を受け止め、今後の参考にしたい。

【SDGｓ推進事業】

（構成員）

子ども向けのSDGｓ推進の取組として、子どもの関係日記という事業があり、絵日記で東松島市の未来を想像して書いていただいているが、圏域全域を考えた取組にできないかと考えた。東松島市だけでなく、石巻市や女川町の子供たちに向けての取組も、連携して何かできないかと思う。子供たちにとって楽しいことを通じてSDGｓを考える機会が重要だと考える。

（座長）

子供向けの取組ということについては、圏域の視点というのが薄れていると感じているため、貴重な意見として参考にする。

各分科会からの意見共有

各分科会座長から主な意見を説明。

【意見】

（構成員）

陸上競技場整備事業について、公園管理費なども削減傾向となっている中、高額な整備費や整備後のランニングコストを加味すると、整備を進めることは適切なのか。

（教育分科会座長）

財政状況や昨今の物価高騰に加え、陸上競技場整備基本構想策定にあたり積算した事業費がかなり大きいといった状況もあることから、維持管理も含め対応の可否を検討しながら事業を進めていく必要がある。担当課に共有する。